

茨城県・栃木県・群馬県は「北関東州」の中核

— 3県の経済連携を強めて「道州制」に備えよう —

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今日は道州制のお話をさせていただきたいと思います。道州制というのは、全国を10ぐらいに分けて、道や州にしようという行政改革の一環として考えられているもので、地域主権型の道州制については、自由民主党や民主党、みんなの党などが導入について意欲的です。おそらく与党や野党も道州制を公約にして選挙が行われ、7月の参議院選が終わると、地域主権型の道州制の導入の議論が始まると思います。その基本となるのが、北関東は道州制の1つと考えられているということです。栃木県、群馬県、茨城県の3県、この3県にプラスして長野県や新潟県、福島県、埼玉県なども案の中に入っているものもあります。ただし、どのような案でも「北関東州」としては茨城県・栃木県・群馬県の3県は必ず入っていることだけは事実です。確定といってよいと思います。この3県にどの県が加わるのかが、今後議論になると思います。

では、何のために道州制が必要なのでしょう。それは、県をなくして州にして税金の支出を減らす、つまり、行政改革のためです。県をいくつかまとめて道や州にする、市や町をいくつかまとめて最低でも人口30万人単位の基礎自治体で行政を行うことで、税金の支出をできるだけ少なくすることが目的だと考えられています。また、行政の単位を道州と基礎自治体にして効率的にした上で経済の活性化をして税収を上げ、よりよい行政をしようということだと思います。北関東の経済の活性化をするために一番大事なことは、3つの県の経済の連携、つまり3つの県の経済的な関係を強くしていくことだと思います。

皆さんもよくご存知だと思いますが、世界は今グローバル化していて、ものやお金、人の行き来がどんどん盛んになってきています。それに対応するために、北関東でしたら3県の経済連携を強固にするのです。世界的な経済危機もいつ来るかわかりませんし、今は為替が1ドル90円以上になって少し安定していますが、再び急激な円高になると失業率が上がります。ですから、急激なグローバル化や世界的な規模での経済危機、具体的には為替の急激な変動に対応するためには、北関東3県が経済的な連携を強めることが一番大事だと思うのです。そして、究極的な目的というのは、国際競争力のある北関東を1日も早く北関東州の中核にして、経済を活性化させ、労働生産性を向上させ失業率

を上げないこと、雇用を維持することだと思えます。失業というのは人間の尊厳を脅かし、人間の尊厳を損ねることもありますので、失業はできるだけないほうがよいと思えます。そのために、経済を活性化させて、グローバル化や世界的規模での経済危機、為替の変動に対応できるように、地域が経済連携を強めてがっちりスクラムを組む必要があると思えます。

また、国際競争力も強化しなければならないと思えます。各市や各町は地域を上げて国際競争力を強化する。しかし、これだけでは足りませんので、道州制を視野に入れてできるだけ早く北関東州としての国際競争力の強化を行う取り組みが必要だと思えます。

栃木県の人口が 200 万、群馬県の人口が 200 万、茨城県の人口が 300 万で、3 県を足すと 700 万人です。これは、北ヨーロッパであればほぼ 1 つの国に匹敵するだけの人口と経済力を持つのです。だからこそ、3 つの県が経済連携を強固にして、地域が一体となって国際競争力を強化することが大事だと思えます。埼玉県は人口 720 万人です。人口 700 万人のこの北関東 3 県と人口 720 万人の埼玉県が組み、人口 1400 万人の北関東州をつくることも素晴らしい考えかと思えます。

グローバル化社会で大切なことは、地域の歴史や文化、価値観、頑張っている特色ある取り組みなどを強みとして徹底的に磨き込んでもらうことです。そして、日本だけでなく世界の人々の課題解決の役に立つ北関東州を目指すことが大事だと思えます。自分たちの国のためだけに北関東州をつくるのではなく、世界の人々の役に立つ地域、北関東州を目指す、世界の方々からも高い評価を得ると思えます。

例えば、足利市の商工会議所では足利 5S 学校というものがあります。5S というのは、整理・清掃・整頓・清潔・躰のことです。この足利 5S 学校は、業種を問わず地域を上げて 5S 活動を行い、昨年は世界 5S サミットまで開催しました。中国でも日本のことを見習って 5S を中心にした改善活動をしていますし、アジアの国々も日本の 5S を学んで改善活動をしています。中国やアジアだけでなく、さらにはアフリカの経済発展、最終的には貧困撲滅にも貢献すると思えます。

また、茨城県には、「日立」という世界のインフラを担う重工業の拠点と「つくば」という世界最先端の研究業績があります。栃木県には、日産栃木工場という世界で最先端の自動車技術を持った工場やホンダの素晴らしい研究所があります。群馬県には、富士重工があります。そこには世界各国から最先端の自動車技術を学ぶために多くの方々が来ています。このような北関東 3 県の優れた取り組みを、3 県の企業や団体が互いに学習をして取り入れるなどすれば、よい連携が深まると思えます。その成果の集積をして、来るべき道州制に備えたらどうかというのが私の考えです。道州制の目的は、3 県の経済を活性化して国際競争力を身に付けること、最終的には雇用の維持を目的にするとよいと思えます。

今日は、道州制、北関東州の未来についてのお話をさせていただきました。皆様はどのようにお考えでしょうか。

— 2013 年 6 月 12 日加筆・訂正、林明夫 —